

3 各種歯科技工装置の製作状況に関する実態調査 —平成23年度から平成25年度まで—

榎並拓也, 飛田 滋

明倫短期大学 歯科技工士学科

keywords : 歯科技工装置, 歯科補綴治療, 内製, 外注

はじめに

明倫短期大学紀要第15号にて平成20年度から22年度の各種歯科技工装置の製作状況に関する実態調査を報告した。その続報として平成23年度から平成25年度まで3年間にわたる明倫短期大学附属歯科診療所（以下、診療所とする）から依頼された歯科技工装置の数量、種類、内製と外注の比率を調査、集計し分析を行った。

この調査により診療所の歯科補綴治療の動向および教職員の実績、専攻科生の臨床教育の実態について分析することを目的とした。

方 法

平成23年4月1日から平成26年3月31日までの3年間に診療所歯科技工室（以下、技工室とする）で製作した各種歯科技工装置について、診療所と沖歯科工業株式会社から毎月発行される歯科技工装置製作内訳資料に基づき集計し分析した。

今回の調査は、診療所から出された歯科技工依頼について技工室内で製作（以下、内製とする）した歯科技工装置と、外部発注（以下、外注とする）した各種技工装置について分析した。

結果および考察

歯冠修復系は内製、外注共にほぼ同じ割合で減少し（図1）、診療所から出た歯科技工依頼そのものが減少したと考えられる。

有床義歯系は内製の数は大きく変動していないが、外注は平成24年度に一時減少し、平成25年度に再び増加している。有床義歯系は平成24年度のみ内製の割合が多くなった。

歯冠修復系は3年間、内製と外注の比率は大きく変化しなかった。

ジルコニアやエステニア等の自費歯科技工装置の製作数は3年間で減少を示した。

部分床義歯の内製の製作数は3年間を通して減少している。全部床義歯は平成24年度のみ大きく内製の製作数が増えている。

診療所からの歯科技工依頼の総額が減少している。

専攻科生の数と歯科技工装置の製作数の関係は、歯冠修復系は学生数の増減と同調しているが、有床義歯系は見られなかった。

歯科技工装置の製作数は学生の人数以外の教職員の臨床歯科技工実績に大きく関係している。

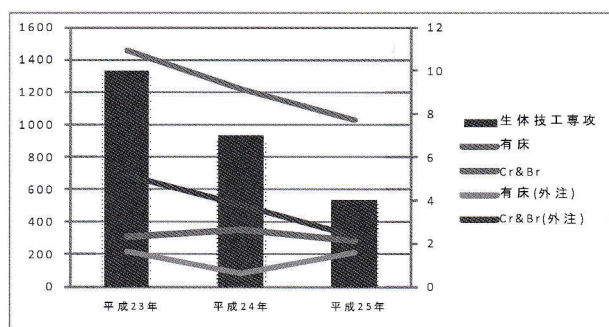


図1 各種装置の変動と専攻生数

まとめ

技工室の内製技工料金は3年間を通して減少し、同じく診療所の売上も減少した。

参考文献

- 1) 飛田 滋, 大沼誉英, 河野正司, 各種歯科技工装置の製作状況に関する実態調査—平成20年度から22年度までの統計調査—, 明倫紀要, 15, 865-69, 2012